

モデル事業名	赤谷地域 活性化モデル事業
活動団体名	赤谷小学校区連携協議会
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス)
所属/担当者名	ご担当者氏名 新発田市 企画政策部 市民まちづくり支援課 清田稲盛樹
連絡先	0254-22-3101 内線 1364 tk-seida@city.shibata.lg.jp
活動地域	赤谷地域

### ● 活動地域の概要

1. 地域の位置・人口： 赤谷地域は、新発田市の最東端に位置し、上赤谷 1・2、滝谷、滝谷新田の4つの集落から成る中山間地域で、明治初期の鉱山開発で昭和 25 年には人口 4,200 人まで増加した。その後鉱山の閉山などにより、現在の人口は 575 人にまで減少した。

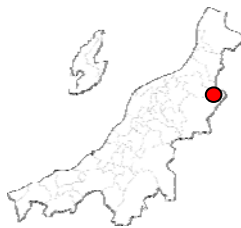
#### 人口の推移

単位：戸・人・%

	世帯数		総人口		65歳以上人口		高齢化率	
	S63	H20	S63	H20	S63	H20	S63	H20
地域全体	297	233	1,029	575	234	281	22.7	48.9

2. 気象・交通： 赤谷地域は飯豊連峰の西麓、飯豊川の河岸段丘に位置し、夏は涼しく快適であるが、冬は積雪が2mを超えることもあり、家屋の雪降ろしも年 3、4 回必要なことから高齢世帯の大きな負担となっている。交通面では、昭和 59 年に国鉄赤谷線が廃止され、現在は新潟交通による路線バスが平日 8 往復、土日 4 往復運行されている。

3. 産業： 江戸時代、会津領に属し、会津街道の要衝、宿場町として栄えた赤谷地域。明治時代になると鉱山開発は進み昭和 30 年初頭まで活況を呈したが、採掘量の減少に伴う閉山などにより、現在は自給目的の農業が中心であるが、近年、猿害による被害が増加し、農家の耕作意欲は減退している。



【位置図】



【高齢者化等による耕作放棄地増加】



【市内で最も降雪量が多い赤谷地域】

### ● 活動地域の課題

過疎高齢化にともなう担い手不足から、集落のコミュニティ機能が低下し、水田、畑、山林などの保全や協同作業による維持管理など相互扶助機能の維持が困難となっている。

また滝谷、滝谷新田では、高齢者が近隣バス停留所まで徒歩で 30 分の時間を要し、買い物や通院などに支障をきたしているほか、離農や猿害により耕作放棄地が増加していることに加え、災害時の安全確保、降雪期の雪下ろし対策など集落維持のための働き手確保が大きな課題となっている。

### ● 活動の内容

#### ・平成 21 年度

昨年度、各部会でとりまとめを行った計画により課題解決のための活動を実施。

- 生活向上部会：高齢者の生活交通確保策の検討・実施
- 相互扶助部会：災害時安全確保のための避難誘導策やハザードマップの作成
- 地域資源掘り起こし部会：会津街道の復元。地域資源の掘り起こしによるイベント等の実施。赤谷歴史ガイドの養成と歴史探訪の実施。
- コミュニティビジネス部会：耕作放棄地対策として「棚田オーナー制度」の構築。地域特産品の検討。地域が連携した効果的な猿対策の実施。

#### ・平成 22 年度

平成 21 年度の活動実績を踏まえ、

- 生活向上部会：高齢者の生活交通対策（ボランティア送迎）の継続
- 相互扶助部会：地域の助け合い活動（雪除け、買い物、通院）の実施
- 地域資源掘り起こし：会津街道の復元。赤谷歴史ガイドの実施
- コミュニティビジネス部会：「棚田オーナー制度」の実施。地域特産品（やろもち）を使ったイベント実施
- その他：猿害対策の実施（地域で追払い隊を組織し、追払い活動の実施）

## ● 活動の成果

(活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

- 一集落では解決が困難な課題について、4集落が問題を共有して話し合うことにより解決の糸口が見つかり、あきらめの気運が蔓延していた地域に「自分たちでもやればできる」という気風が芽生えた。
- 「生活交通対策」「災害時の安全確保」「PR イベント」の実施などについて多様な団体、人材から参画を得て協働で進めることにより、効果的なアイデアや方策がもたらされ活動が好転したことに加え、多くの人が地域に訪れることで自分たちの暮す地域に誇りと愛着を深めることができた。
- 地域内において多くの方が地域活動の大切さに気付き、地域を支える人材の発掘・養成ができた。



ボランティア輸送による生活交通対策の実施

## ● 直近1年間の効果

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

- 生活向上部会：地域内でボランティア、利用者を募り最寄りのバス停留所、診療所までの送迎を行うボランティア輸送を週1回（金曜日）開始。これまで通院をあきらめていた高齢者が頻繁に利用するようになった。
- 相互扶助部会：降雪期の除雪、雪除け作業ボランティア制度の確立
- 地域資源掘り起こし部会：イベントなどで歴史ガイドを実施。
- コミュニティビジネス部会：耕作放棄地対策として「そばオーナー制度」実施  
地域特産品づくり。猿害対策として、猿追払い隊の設置。



マタギ伝承料理「やるもち」を特産化することを目的にイベント開催

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

平成20年度に国土交通省が実施する「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業の採択を受け、地域の課題や活性化に向けた取り組みを開始した。この中で、長年、地域の課題となっていた「高齢者の生活確保」「災害時の安全避難策」「地域資源の掘り起こし」などについては、4集落の連携を基礎として多様な団体からの参画により、ある程度、目処がたった。

しかし、過疎高齢化の進む当地区において、今後に渡って活動を継続していく事、更に発展されていく事などについては後継者の面、資金の面、人材の面を考えると将来に向けての不安が募ってくる。

また、近年、地域の最も大きな課題となっている猿害対策については、抜本的な対策が存在しないことから、被害を一定程度に留めるためには、適正規模の駆除による頭数管理や、継続的な追払い活動など粘り強い対応が必要であるが、年々、頭数が増加する状況の中で耕作意欲の減退は免れない状況となっている。

### ・展望（今後の取組みや検討について記入）

当地区については、活動を通じて赤谷ファンとサポーターの養成を目的の一つとして活動を展開してきた。また、各種交流事業を通じて市内外から500人以上の参加者が赤谷を訪れた。本年度から実施した「そばオーナー」については、150㎡8,000円でオーナーを募集したところ、15名の参加枠に対して倍以上の参加希望があった。

オーナーは新潟市を中心に市外者が多いが、頻繁に当地を訪れ地域住民とのふれあい、交流が生まれている。

今後もこのような手法を通じて一過性のイベントではなく本当の信頼関係が育まれる交流を行って行きたいと考えている。



加茂市から参加したそばオーナー



1ヶ月ごとに生育情報が発信。